

会議等速報

令和3年3月30日

件名	令和2年度 第2回鹿児島市食育推進委員会	作成課	保健所 保健政策課
日時	令和3年3月25日(木)14時00分～15時10分		
場所	市役所 西別館1階東部保健センター講堂		
出席者	公募委員3名、学識経験者1名、消費者団体等の代表者2名、 教育福祉関係団体の代表者2名、保健医療関係団体の代表者3名、 食品関係者2名 計13名(欠席4名)		
市出席者	事務局：保健政策課長、健康づくり係長、係員		
会次第	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>議題</p> <p>(1) 第6回かごしま食育フェスタ実施報告</p> <p>(2) 食育に関する市民意識調査実施結果報告</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>		
主な意見等	<p>議題</p> <p>(1) 第6回かごしま食育フェスタ実施報告</p> <p>(委員) 来年度見送りは決定なのか。</p> <p>(事務局) その通りである。</p> <p>(委員) コロナは昨年よりは落ち着いているような気がする。食育を普及するという点でとても良いイベントなのに残念だ。他市町村でもイベントを工夫して実施しているが、そのようにはできなかったのか残念でならない。</p> <p>(委員) 今年度のフェスタに出展した。コロナの影響で来場者が少ないと思っていたが、多くの方が来ていたようであった。来場者の方々も勉強になったと言ってくださり、出展してよかったと思った。</p> <p>(委員) 今年度のフェスタはコロナの影響でギリギリまで出展するかしないかで悩んだが、事務局が対策を取って実施するというので、出展を決めた。当日の来場者は思っていたよりも多く、出展した側も大変満足感があった。今年度が乗り切れたので来年度もできるのではないかと思う。縮小でも良いのでぜひ実施してほしい。</p> <p>(事務局) 現段階では実施する、とは言えないが、何かしら別の方法でも実施できないかなどまた検討していきたい。</p> <p>(委員) マルヤシネマとのコラボ企画はよいと思う。この企画はどちらから提案したのか。また、どのくらいの効果があったのか。</p> <p>(事務局) 企画提案があったのはマルヤガーデンズからだった。映画を見てフェスタに来場した方は20人であった。フェスタのチラシを持って映画を見た方の数は把握していない。</p>		

(委員) マルヤシネマが繁盛していたとか、感覚的なものでも構わないので効果は分からないか。

(事務局) こちらでは把握していない。

(2) 食育に関する市民意識調査実施結果報告

(委員) よく噛んで食べている人は増加しているようだ。噛むことはどのようなものを食べるか、ということにつながると思う。硬いものは噛めるけど柔らかいものは噛めない。「主食・主菜・副菜を揃えた食事をしている人の割合」とのクロス集計をしているが、やはり噛んで食べていない人ほど主食・主菜・副菜を揃えた食事をしていないという結果は確かだと思う。バランスの良い食事を摂ることが噛むことにつながるので、併せて指導していく必要があると思う。

(委員) 朝食欠食について、中学生～18歳未満は欠食率が増加している。中学校で指導している中では、欠食している生徒は少ないような気がする。中学生より高校生の方が多いのではないか。

(事務局) 年代別で見るとおっしゃる通り、年齢が上がるほど欠食率が増加しているという結果が出ている。

(委員) 中学校ではできていたことが高校に上がるとできなくなるということではよくないので、継続させていけるような指導をしていかないといけないと思う。

(委員) 農林漁業体験の有無についての設問の選択肢を前回調査時より分かりやすくしているのはよいと思う。また、18歳未満で「種まきから収穫までなど全体を通した体験をしたことがある」と回答した割合が5割近くあることに驚いた。学校や家庭で取り組んでいるのかなと思う。教育委員会と何か連携したりなどやり取りがあったのか。

(事務局) この結果に対しての詳しい分析はまだしていないところであるが、教育委員会で栽培体験などしているのだから、選択肢をより分かりやすく変更したことが増加につながったのではないかと思う。

(委員) コロナ禍で家庭での時間が増えたと思うが、そのことによるメリットはなかったのか。

(事務局) 分析は来年度する予定ではあるが、確かにおうち時間が増えたことによってアンケート結果の改善につながったということもあったと思う。しかし、この改善が一時的なものとするのではなく、今後も継続させていく取組は行っていきたいと考えている。

(委員) 年代別の傾向は把握しているのか。

(事務局) している。

(委員) 3区分だけでの評価ではなくて、年代別でもした方が良いのではないか。

(事務局) 報告書の方には全設問年代別の結果も掲載している。

(委員) 報告書が厚すぎて市民向けには難しい。もっとわかりやすくできないのか。

(事務局) 今後の参考にさせていただく。

(委員)「主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには、どのような事が必要だと思いますか」という設問に対して、「手間がかからないこと」と回答した割合が63.0%と最も多くなっている。確かに、簡単なレシピを教えてほしいという依頼も多いので、今後の参考にしたい。

(委員) 全設問で有意差検定等を行っているのか。

(事務局) 全設問ではしていない。

(委員) していないのであれば、結果が多い、少ない、ということしか出せないのではないかと思う。

(委員) 近年、和食推進の取組が進んでいる。園でも「和食の日」を設定して煮物など噛み応えのある食事を提供しているところがあるが、そこに「噛む」ということも併せて伝えていくと良いのではないだろうか。

(委員) 働く保護者を見ていると、忙しくて生活することで精一杯な気がする。「食べる(食べさせる)」ということが精一杯で、「食育」ということまで考える余裕がないように思える。もちろん食育をしなくてよい訳ではないが、このような現状があるという視点も持った方が良いと思う。

(委員) 家庭で教えることが難しい現在なので、学校で教えるということが必要なのだと思う。

(委員) 給食は食育として、栄養～マナー～噛むこと～食品ロス等、とても幅広く工夫して取り組んでいると思う。(とある学校では)年度末に実施するリクエスト給食では、ここ10年くらいは1位が「鶏飯」となっている。奄美から来た先生がいたということで鶏飯を提供し始めたが、これが継続して実施されているようだ。他にも、学校で育てた野菜を給食に使うなど、学校によっていろいろと工夫されて給食提供、そして食育を実施されている。

(委員) 現在の給食は加熱調理が基本となっている。以前は餅つきをして食べる等していたが、今はできない。今年は節分のピーナツについても注意喚起の通知が出され、提供できなくなった。家で食べないものは給食でも拒否反応を示す子どもが多いので、できるだけ給食で色々なものを提供したいが難しくなっている。

また、コロナの影響で給食は黙食となっている。このため、声掛けができなくなっている。(以前は好き嫌いがある子どもへは声掛けをして食べさせていたが、それもできない)

親子クッキングの実施も難しく、3年度もどうなっていくか分からない状況である。

(委員) 給食では家庭であまり食べないようなもの(豆類等)を提供するように工夫しているが、残食が多い。(洋食の日は残食が少ない)

	<p>(委員) 食品ロスと表記しているところと食品廃棄と表記しているところがある。 似たような言葉で分かりにくいのではないか。</p> <p>(事務局) 今後のアンケート作成の参考にさせていただきたい。</p>
--	---